



名前 「

」

祇園精舎の鐘のこゑ、諸行無常のひびきあり。沙羅双樹の花
いろ じょうしやひつすい
 の色、盛者必衰のことわりをあらはす。おごれる人もひさしから
はる よ ゆめ
 ず、ただ春の夜の夢のごとし。たけき者もつひにはほろびぬ、ひ
エ カゼ エ
 とへに風のまへのちりに同じ。
オ イチよう エ
 とほく異朝をとぶらへば、秦の趙高、漢の王莽、梁の朱い、唐
ろくさん
 の祿山、これらはみな旧主先王のまつりごとにもしたがはず、た
ワ
 のしみをきはめ、いさめをも思ひいれず、天下の乱れんことをも
みんかん
 さとらずして、民間のうれふるところを知らざりしかば、ひさし
もの
 からずしてほろびし者どもなり。

ちかく本朝をうかがふに、承平の将門、天慶の純友、康和の義
ほんちよう ウ
 親、平治の信頼、これらはみなおごれることも、たけき心も、み
ちか へいじ のぶより
 なとりどりにこそありしか、まぢかくは六波羅の入道前の太政
ろくはら にゆうどうさき だいじよう
 大臣平の朝臣清盛公と申せし人のありさま、つたへ聞くこそ心
だいじんたいら あそんきよもりこう もう ひと
 もことばもおよばれぬ。
エキ
こころ